

キャラクター名
愛宕 燐

プレイヤー名

シンドローム	ハヌマーン サラマンダー		ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
	オプショナル		年齢	16	性別	男
覚醒	無知	衝動	解放	初期侵食率	33	%
出自	96：犯罪者の子	経験	6：力の暴走	邂逅	87：秘密	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	3	1	0			4	行動値	0
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	0
精神	2	0	0			2	戦闘移動	5
社会	2	0	0			2	全力移動	10

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
レイジングブレード	白兵	4r+1	6	12		行動値-4、シーン1回ダメージ+2d
ホームズピ	白兵	10r+1		30		侵蝕率11、HP-3
ヤギハヤ	白兵	8r+1		42		制限80、侵蝕15、HP-3
ヤギハヤ	白兵	10r+1		50		制限100同上

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
ウェポンケース	
コネ:UGN	

合計装甲： 0 合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費
秘密兵器	P	N		
父：愛宕 猛	P 誠意	N 嫌気		
シナリオロイス：シルフ	P 庇護	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
集中：蜥蜴	2	2	メジャー					
効果：								
音速攻撃	2	2	メジャー			白兵射撃		
効果： 判定ダイスを+Lv								
さらなる波	5	2	メジャー			シンドロ		
効果： 攻撃力+Lv*2								
炎の刃	4	2	メジャー			白兵射撃		
効果： 攻撃力+Lv*2								
炎神の怒り	3	3	メ/リ			肉体		
効果： 判定ダイスを+Lv+1。使用后HP-3								
クロスバースト	3	4	メ			シンドロ	80↑	
効果： 攻撃力+Lv*4、判定D-2								
マシラのごとく	3	5	メ			シンドロ	80↑	
効果： 攻撃力Lv*10、								
炎の理	★							
効果：								
空の楽器	★							
効果： 専ら 会話用								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

『……手向けの華だ、持ってけ』
『火は嫌いなんだよ。だからこうして扱ってんだ』
『良く回る口だな。俺への当てつけか？』

歳の割に落ち着いた雰囲気を持つ少年。能力の暴走によって喉を焼いた唾者であり、意思疎通は《空の楽器》による合成音声で行っている。肉声も出せるには出せるが、とてつもなく汚い声かつ喉への負担が激しいので当然滅多には喋らない。

近接戦士であり、EXレネゲイドの大剣使い。一刀こそ閃くように速いが、それを抱えて走り回るだけの力はない。また、振るうのも自壊前提のブーストで振るうため毎回反動が来る。コードネームは剣から奔る炎が花弁のように広がり、瞬いて消えることから。

察する能力は鈍いシデリカシーはあんまりない。ついでに言うと性格もよろしくない。

— — — back ground — — —

幼年期の記憶は薄い。特別恵まれてはいなかったものの、特別貧しいわけでもなかった気はする。——だからきつと、平凡で幸せだったのだろう。まだ僅かに残る暖かさが、それを悲しく証明していた。

火を出したのはいつだったのか。物心のつく前から何の気なく使えた、たった一つの『特別』を、嬉々として親に見せたのは覚えている。それでお終い。全部台無しだった。慌てふためいた母は悪魔と誇り刃物を向け、宥めに入った父はあろうことがその母を殺めてしまう。逃げ出した背と横たわる遺骸に目をやり、処理しかねた子供心は能力を暴走させ、漸く出向いたUGNが沈静化した頃には、小さな骨と焼けた喉しか残らなかった。